

【東奥日報に余剰電力蓄電システム GEMCOS が紹介されました】

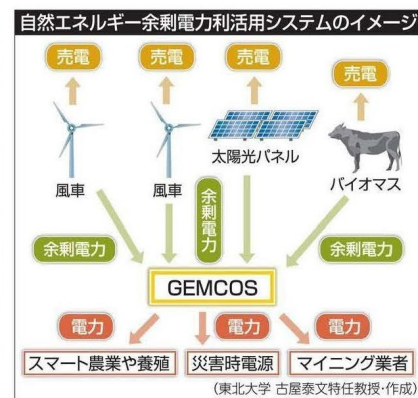
東奥日報 2019年7月12日付朝刊に「余剰電力蓄電し活用へ」として余剰電力蓄電システム GEMCOS が紹介されました。

当社は2019年7月10日付けで「グリーンエネルギー余剰電力マネージング&オペレーション協調操業システム「GEMCOS」の開発および実証試験開始に関するお知らせ」のとおり、東北大学マイクロシステム融合研究開発センターの古屋泰文特任教授の監修協力を得て、当社パートナーである AURA-Green Energy 株式会社および株式会社システム・アイ社と共同で、これまで小型風力発電において、ある一定以上の電圧を超えると余剰になる電力を、変動電力出力の整流化を図ることにより、バッテリー蓄電機に貯めて、いつでも必要時に自在に活用することができる、グリーンエネルギー余剰電力マネージング&オペレーション協調操業システム「GEMCOS」を開発いたしました。

2019年（令和元年）7月12日 金曜日

余剰電力蓄電し活用へ

アウラ社(青森)など3社開発



新エネルギー開発を手掛ける青森市のアウラグリーンエナジー（川越幸夫社長）など3社は11日、風力発電などの自然エネルギーで生じた余剰電力を蓄電し安定供給するシステムを開発したと発表した。関係者は農業にIoT（モノのインターネット）を導入したスマート農業や災害時の緊急電源などへの応用を目指している。

同社とシステム・アイ社が発したのは「グリーンエネルギー余剰電力マネージング&オペレーション協調操業システム」（GEMCOS）。

東北大学の古屋泰文特任教授によると、北海道や東北では送電線の容量制限があり、風力発電の約3割が電力会社に買い取られずに熱エネルギーに変換されて捨てられているという。

GEMCOSは風車発電の電圧が一定以上になると、風力によって電圧が変動していても整流化・安定化させて蓄電。電力を供給する先の装置に合わせて消費電力を最適化するソフトウェアを組み込んだ。風力だけでなく、太陽光、バイオマス、地熱などの異なる

スマート農業、災害時想定

エネルギーを組み合わせて運用することもできる。

11日、同社で記者会見した川越社長は「スマート農業や養殖などの水産業の電力や、災害時の電源などへの応用が考えられる」と話した。

現在、深浦町で風力発電で生じた余剰電力を活用し、仮想通貨の記録を計算した協力者が新しい仮想通貨をもらえる「マイニング（採掘）」を実験的に行っている。マイニングはサーバーを稼働させる電力コストが経費の6割以上を占めるとされ、GEMCOSによる低コスト化が注目されている。